

令和7年度 第1回鎌倉市子ども読書活動推進計画に関する連絡会議 会議録

日時：令和7年（2025年）7月3日（木） 15時～16時35分

場所：中央図書館 多目的室

議事次第の通り、議事を進行

議事次第1「自己紹介・各施設・学校等の子どもの読書環境について」

（会長） 「自己紹介・各施設・学校等の子どもの読書環境について」を始めさせていただきます。今年度初めての会議となりますので、自己紹介として、ご自身のことでも、学校や課での子どもの読書環境についてでもお話しいただけたらと思います。

（委員） 子どもに読み聞かせは一日に何度も読んでいるが、就学前には字を教えない方針の保育園なので、子ども自身が読むことはない。だが、子どもたちは絵本を使わない「すばなし」をしてもらうことを「よんで」という。そこが面白い。絵本がなくても、物がなくても「読んで」という表現をするのは、子どもはおはなしも絵本も同じものとしてとらえているからだと思う。

（委員） 家族の子どもたちは大学生と高校生になった。小中学校でお世話になった絵本読みサークルや図書館ボランティアには行っている。絵本読みサークルは1月に2回ぐらい行っている。保護者目線で、グループ内の入れ替わりを見ながら、つなぐような立場で参加している。新しいメンバーが増えてきている中、メンバーがかわると定番本がかわるということもある。子どもたちにも親にも好みがあるので、どういう反応があるのかわからず、楽しい面もあるが、選書が難しい。ただ、6年間に100冊ぐらい読めるので、その中で好きなものが見つければよいと思っている。

（委員） 家族には2歳と小学校1年生がいる。保護者の校内ボランティアに参加している。子どもが在籍しているクラスでおはなし会を行う。70名弱で、LINEでつながり、情報交換を行う。子どもの読書に対する保護者の思いの強さを感じている。実際の子どもの反応を、保護者と共有している。おはなし会の選書に携わる中で、子どもが自分で考えるきっかけづくりや、命の尊さを伝えることをしたいと思うが、子どもの本を選ぶことは、大きな責任を感じる。

（委員） 保護者が月に1、2回、読み聞かせを全クラス実施。それ以外は子どもたち自身の読書時間として朝読の時間を設けている。1～4年生まで週1で図書の間があるが、高学年はなかなか確保が難しい。御成小学校内でも読書時間の差がある。学校間の差も大きく、小学校として朝読がないところもある。小学校も忙しいが、落

ち着いて本を読む時間が確保できればよい。

（委員） 学校図書館に、5月から新聞を置くようになった。学校司書とどの新聞を置くかについて、検討し、日本経済新聞と中高生新聞を選定した。難しすぎるのか、まだ読まれていないが、後々社会の授業でも扱いたいという話があるので、これから使われると思う。図書委員会も担当している。活字が苦手な子に、漫画を購入して学校図書館におくことで学校図書館の来館者が圧倒的に増えた。50～60人昼休みに来る。居場所の確保になっている。個人的には司書教諭の免許を取っていなかったが、学びなおして昨年度取得。深沢中学校は学校司書が意欲的で、市内の中でも活発な学校図書館かと思う。

（委員） いろんなカタチ新聞を、市民協働でだしており、昨年度、絵本『みんないろんなカタチ』になった。手に取ってもらえるようなものになったので、ぜひそういう取組なども広く伝えていきたい。

（委員） おはなし会は保育園で幅広くやっている。今日行った保育園では、お昼寝の前に、クールダウンするために読んでいるようだが、子どもたちが自分で読む絵本を決めていた。当番制で、子どもたちが決める。内容がわかっていて、今日の自分たちにとって読んでほしいものを選んでいくということをしていた。読書推進というと、本を増やそう、新しくすることを考えがちだが、子どもたちが読んでもらいたいものをちゃんと用意していく、という大切さを確認した。

（委員） こども計画、教育大綱の市役所版を策定したので、ご協力お願いしたい。こども支援課は、第六分庁舎「きらきら」のほか、梶原冒険遊び場も所管している。冒険遊び場は遊ぶ場所と、隣でゆっくり本を読む場所もある。居場所の一つとして、場を提供したいと思う。

（委員） 小学校16校にすべて放課後かまくらっこを整備していて、そこには漫画や本がある図書室がある。図書館にも読み聞かせに来てもらっていると聞いている。私自身は本を読まずに育ってきてしまったので、本に触れる機会を作っていければ、と思っている。

（委員） 学校図書館の人員の大異動があり、新しい視点で、学校図書館整備を行ってもらっている。例えば、ラベリングや色を分けるのが普通だと思っていたが、異動先では違う、ということ等が起きていて、活性化につながればと思う。学校司書は一人職場なので、先生たちが何を望んでいるかを知る等の交流の場をつくることも大切だと考える。学校としてどんなことができるのか、チームでなにができるのか、子どもたちの読書環境整備に資するように、学校司書へ研修も図書館に協力してもらい行

っている。市内の子どもたちに配布したタブレットに入っているデジタル書籍「読書館」は、導入当初、読める本に限りがあって、読まれなかったが、少しずつ中身も充実してきた。興味を持った子が手に取れるような環境が作れるように、と思っている。

（会長） 幼稚園には「絵本の会」があり、保護者が絵本を持ち寄って話をしている。1年間行くと年度最後の3月に満足感がある。関わっている光則寺では、宮沢賢治の読書会、朗読会をしていて、声に出してみんなで読む。その時に、参加者が物語にでてくる食べ物を作ってきてくれる。作品内には音楽もたくさん出てくるので、当時の音源を持ってきて聞くこともしている。本から「その時代に行く」、「世界が広がっていく」という経験ができる。

議事次第2 鎌倉市子ども読書推進計画について（資料3）

議事次第3 書面会議の報告について（資料4、5）

事務局から説明ののち、質疑応答。

（会長）「ふかまルーム」とはどのようなものですか？

（委員） 「ふかまルーム」は学校には行けるけれど、教室には行けない子どもたちのフリースペースとして設置している。保健室や、スクールカウンセラーの教室にも本を置いてもらっている。貸出を図書委員の生徒が担当するので、学校図書館では借りる本を知られたくないという場合がある。様々な本へのアプローチ法がある。

（先生） デジタルと紙はどちらもいると思った。バリアフリー関係は積極的に情報発信をしてください。

議事次第4 教育大綱・教育振興基本計画について（資料6、7）（前半）

事務局より教育大綱・教育振興基本計画について説明。

（委員） 教育、子どものためのものと考えがちだが、「生涯に渡り」として全市民が対象者であることを表現している部分がよい。ハイブリッド、わくわくできる学びが、つながる、というところがよかった。教育振興基本計画の、「バリアフリー図書パッ

ク」は団体向けのものか？情報活用研修の対象は教員だけか？バリアフリー図書パックや、情報活用研修は、保護者や一般でも見てみたいと思う。

（事務局）学校の先生にまず回覧して見てもらい、学校図書館の蔵書として購入する参考にしてもらいたいと思っている。学校をターゲットに考えていたが、今の話を聞いて、別の部分でのニーズがあることがわかったので検討していく。

（委員）家庭文庫で子どもたちと楽しむために提供するのもよいと思った。

（事務局）文庫は減少しているが、ちらほらまた新しくはじめる話も聞いているので、バリアフリー図書の貸出などを検討していきたい。

（委員）バリアフリーコーナーを増やすことで、市民に読書バリアフリーが広まるのもよい。バリアフリー図書は、各図書館でコーナーを作って広く市民に親しんでもらえればと思う。

（事務局）情報活用学習のための研修、学校の教員や学校司書、市図書館員への研修として行ってきたが、一般にもニーズがあることがご意見を伺ってわかったので、開かれた講演会の機会も検討していきたい。

（会長） デジタル情報の取り扱い。世の中では大変な事件がおきているが、一律禁止とはいかないので、どうしていくか。大人も学びたい気持ちがある。ハイブリッドな活用の研修ではどんなことをやってきたのか。

（事務局）令和5年度は、Wikipedia の記述の出典を探して、Wikipedia に書き込む研修だった。出典に目を向けることでエビデンスの捉え方について学んだ。また、WEB にどんな危険があるかなどの情報リテラシーの講義。令和6年度は学校の授業に向けての紙とデジタルのハイブリッド活用についての研修、令和7年度は文部科学省が設置する学校図書館有識者会議に参加している人を講師に招き、学校図書館についての研修を行った。

（委員） 学校司書に向けて実施の感想としては、国の考え方、学校に何が必要とされているかがわかったので、図書館整備に向けて進んでいければ。教員、市の図書館員、学校司書が話すグループワークの時間もあり有意義だった。

（事務局） ご意見をいただいて、広くいろいろな大人も知りたがっているということがわかった。

事務局より、教育振興基本計画に内包される第5次鎌倉市子ども読書活動推進計画について説明。

（委員）子どもの居場所としての図書館の整備・サービスの検討についてだが、この「ゾーニングについての研修を行う」というのは、だれがだれに行うのか？

（事務局）図書館員に見識がないので、ゾーニングについて、建築や子ども向けの空間についての専門家に研修をお願いしたいと考えている。

（委員） 「具体的な取組」について、抽象的な表現と、具体的な例が並列されていてわかりづらい。「魅力ある蔵書」や「子どもや保護者のニーズ」の違いのイメージがわきづらい。

（事務局）ご指摘のとおりかと思う。修正を検討する。

（会長）やってみてできるといったものは具体的に書かれていて、これからのものは抽象度の高い表現かと思う。具体的なものはアクションプランに記載するなど検討してもいいかもしれない。

（事務局）抽象的なことばかりも書けないし、具体的なものばかりも書けなくて、このような表現となった。表しておく予算措置につながる部分もあるため、このような書き方になっている。

（委員）こども支援課では、鎌倉市こども計画を作ったので、その時のことをふまえて。書面会議の中で、子どもの意見を聞くという項目があったが、当事者の意見を踏まえて、その意見反映に積極的に取り組んでほしい。「居場所」については今まで定義があいまいだったが、令和5年12月、国から「子どもの居場所づくり」の指針がでた。どんな場所であっても、居場所となるし、子どもたち自身が自分で決めていい、という考え方。居場所について情報発信していくのがよい。

（委員）子どもの意見の反映についてだが、子どものニーズを把握する方策として、「親子の図書館貸し切りデー」はどうか。普段は図書館に置かないもの置くなど（例 ボールプール、出土品などを並べる）。普段はやらないことをやって、ニーズを探る。こういった事例は、アクションプラン的かもしれないが。

子どもの居場所として考えるうえで、カームダウンスペース（周囲の音や光、視線などの刺激を遮断し、気持ちを落ち着かせたりするスペースのこと）の必要性について言及しておきたい。東京国立博物館には、親子連れが気兼ねなく遊べるスペース「あそびば@とーはく」というのがあった。そこでカームダウンスペースというのが設置されているこ

とが気になっていた。最近、文庫で10人ぐらいの子どもが集まった時、がやがやしていたのだが、「うるさい」って思った子が、自分で小部屋にこもって自分をたてなおしてから戻ってくるという場面があった。発達特性をもつ子にとっては、別空間で自分を立て直すスペースがあるといいのかもしれない。集団生活が難しい子どもにとっても、居場所になるようにできるといい。

（会長） 図書館に泊まれたらいいな、という意見もあったが。

（事務局） 子どもの意見は大事だと思っているが、乳幼児については連れてくるのは保護者なので、保護者の意見も大切と考え、子どもや保護者のという表現とした。

（委員） 具体的に書くのが、厳しいのはわかっている。だが、乳幼児の意見イコール保護者の意見、というのは違うと思う。ことばではなくて、しぐさとしても、本人たちがどう感じているかをはかるのは大切。子育て当事者としての保護者としての意見、乳幼児としては乳幼児の意見として考える。

（事務局） 以前、子どもたちから「ジャングルみたいな図書館」という要望があったができないように、どのように受け止めていくか。図書館は静かにしないといけないという従来の考え方から切り替わっていく過渡期にある。居場所の一つとしての図書館があるので、引き続き、子どもの居場所として検討していきたい。

赤ちゃんの満足度、おはなし会でもダイレクトにわかる。子どもたちが、普段図書館を使う行動からでも何か気づくことがあると思うので、反映させていければ。

（会長） ありがとうございます。

次回日程については11月11日（火）、14日（金）、20日（木）で検討。